

平成18年段級審査学科問題

平成18年4月以降三弓連主催の地方審査会の学科試験問題は、下記の問題集より出題します。

- 1 設問は4区分とし、式段～四段別に下記より2問出題し、配点は1問50点で2問100点とする。
- 2 解答時間は40分以上60分以内とし、そのときの審査会で決められた時間内に解答する。
- 3 学科試験は60点以上を合格とする。(術科で級位に判定された者は、この限りにあらず。
- 4 無指定～初段は、3問出題し、1問の配点50点。文書中の空白部分□に適した言葉を入れる問題とふりがなを付ける問題を10問ずつ出題し、配点は25点ずつで計50点で合計100点である。

[無指定・初段共通]

- 1 あなたが、弓道を志した動機はなんでしたか。
- 2 弓道を始めて感じたことを述べなさい。
- 3 あなたは危険防止について、どんなことに注意していますか。
- 4 弓具の取り扱いについて、①弓、②矢、③ゆがけ、の3つに分けてそれぞれの注意点を述べなさい。
- 5 あなたは毎日どのように弓道の練習に取り組んでおられますか。毎日の練習方法と気を付けている点を述べなさい

次の文書の□に適した言葉を入れなさい。10箇所設問します。1箇所/2.5点です。

A) 爪立って腰をおろした姿勢（跪坐・蹲踞）

坐っての爪立って姿勢を跪坐といい、いつでも次の動作に移ることのできる構えである。物を持ったときは、物を持った方の膝を生かす。両方に物を持ったときは主たるもの（弓矢の場合は弓）を持った方の膝を生かす。膝を立てるのではない。膝を生かした場合の大腿部の角度は約四十五度、膝頭と床との間隔は掌がはいる程度である。これは持った用具を体の一部と心得、生命が通っていないとしないために「生かす」ということばを使っている。足は双方そろい、踵が開かないようにつけ、爪先はなるべく体の内側に入ること。

《教本巻一69P》

1) 足踏み

「足踏み」は、弓を射る場合、その基礎となる最初の足の踏み方一足がまえである。矢が正しく的にあたるためには、まず正しい姿勢を作ることが必要で、そのためには正しい足踏みをしなければならない。単なる足開きではない。

「足踏み」は、射位（弓を射る位置）で脇正面に向って立ち両足先を的の中心と一直線上に外八文字に踏み開く動作である。その角度は約60度で、両足先の間隔はおよそ自己の矢束とする。

《教本巻一105～107P》

2) 胴造り

「胴造り」は、「足踏み」を基礎として両脚の上に上体を正しく安静におき、腰を据え、左右の肩を沈め、脊柱および項を真直ぐに伸ばし、総体の重心を腰の中央におき、心気を丹田におさめる動作である。この場合、弓の本弰は左膝頭におき、右手は右腰の辺にとる。以上の動作と配置によって全身の均整を整え、縦は天地に伸び、横は左右に自由に働けるような、やわらかい且つ隙のない体の構えを作るとともに息をととのえることが肝要である。こうした沈静的な動作へ移る前提であり、「胴造り」は始終

行射の根幹となり、射の良否を決定する。

「胴造り」は、外面的には一見きわめて単純な動作のように見えるが、内面的にはまことに重要なものである。

《教本巻一107～109P》

3) 弓構え

「弓構え」は、いよいよ射の活動に移る直前の準備動作である。したがって「足踏み」・「胴造り」による基礎体勢を保持しつつ、呼吸を整え気力を充実して動作しなければならぬ。「弓構え」には、正面の構えと斜面の構えとがある。いずれも「弓構え」の中には、「取懸け」「手の内」「物見」の三つの動作が含まれている。すなわち、正面（射手の顔は弓と弦との間にある）で蹠の拇指を弦にかけ、三蹠の場合は中指で拇指を押えて人差指を添え、ともに拇指ははねるようにしてやわらかく整える。これを「取懸け」という。左手は正しく弓の握り皮のところを握り、手の内を定める。

《教本巻一109～111P》

4) 打起し

「打起し」は弓を引き分ける前に弓矢を持った左右の両拳を上にあげる動作である。「打起し」には、「正面打起し」と「斜面打起し」との二つの方法がある。

1, 正面打起しは、「弓構え」の位置からそのまま静かに両拳を同じ高さに打起こす。

2, 斜面打起しは、斜面の「弓構え」から左斜面に打起こす。

「打起し」の高さは約45度を基準とするが、年齢と体格などによって多少違いがある。「打起し」の際は精神身体ともにゆったりと伸び伸びした気持ちで、氣息を整え「胴造り」のくずれぬように、また拳に無用な力を入れぬように、矢は常にほぼ水平に且つ体と平行に、両肩は沈むように注意しなければならない。あたかも太陽が静かに昇る境地、無風帯の日に空に煙がゆったりと立ちのぼる風情で、呼吸に合わせて静かに打起こすことがよい。

《教本巻一111～112P》

5) 引分け

「引分け」は、打起こした弓を左右均等に引き分ける動作である。「引分け」は射の運行にあたってその中心となるもので、「引分け」の良否は次にくる「会」「離れ」に大きく影響する。昔は「引取り」と称していたが、射を行う場合、弓を押し弦を引いて弓を左右にひとしく引分けるのであるから、表現どおり現在は「引分け」と称している。引分けの方法には、つげの三つの様式がある。（省略）いずれの引分けの場合でも、両拳に高低なくほぼ水平（または矢先がわずかに低い程度）にし、体と平行に運び、矢先が上がらぬよう的に向かって水平を保ちつつ左右均等に引分ける。

《教本巻一112～115P》

6) 会

「会」は形の上では「引分け」の完成された状態をいうが、射手の心理からいえばむしろ無限の「引分け」である。今までの諸段階はこの「会」に到達するために行ってきたもので、精神・身体・弓矢が渾然一体となり、満を持し氣迫をたたえ、間断なく天地左右に伸張して（伸合い）発射の機を熟させる頂点で、まさに弓射の極致である。「会」において重要なことは「詰合い」と「伸合い」である。「会」を構成する根本の条件は縦横十字の規矩を正しく守ることにあるが、それには「引分け」を正しく行わなければならない。「会」において縦横十字の規矩を堅持し、五重十字が構成され、天地左右に伸び合うためには要所要所の詰合いが十分でなければならない。したがって詰合い・伸合いが良射を生む絶対的条件である。

《教本巻一115～120P》

7) 離れ

「会」が完成されると「離れ」が生じる。「離れ」は発射である。すなわち体の中筋から左右に開くように伸張し、気合いの発動とともに矢が離れていく状態をいう。「会」と「離れ」は、「会者定離」という仏教語から転用されたといわれるように不離一体のもので、会では力がまとまり、充実して、一本の矢に移され、「離れ」を生じるのである。したがって、「離れ」は自然の離れでなくてはならない。離すのではなく、離されるのでもない。これをたとえていえば、葉末にたまった雨露が自然に地に落ちる—すなわち、機を熟して自然に離れるものでなければならない。　　《教本巻一120～121P》

8) 残心（残身）

矢の離れたあとの姿勢をいう。離れによって射は完成されたのでない。なお残されたものがある。精神でいえば「残心」、形でいえば「残身」である。「残心（残身）」は「離れ」の結果の連続であるから、「離れ」の姿勢をくずさず、気合いのこもったまま体は天地左右に伸張し、眼は矢所の着点に注いでいなければならない。「残心（残身）」射の総決算である。体形厳然として、縦横十文字の規矩を堅持していなければならない。前述のように、一貫した射が立派に完成されたときは、「残心（残身）」も自然立派であり、弓倒しも生きてくる。「残心（残身）」の良し悪しによって射全体の判別ができるし、射手の品位格調も反映する。　　《教本巻一121～123P》

9) 次の用語にふりがなをつけなさい。（この中の語句より10問出題する。1問 2.5点です）

虎口	走り羽	丹田	胸弦	息合	角見	進退周還	本弭	筈
矢束	矢摺籐	関板	候串	末弭	弦道	会者定離	内竹	磔
外竹	脇正面	大前	上座	膝頭	弦輪	基本体型	伸合	塚
弓手	射付節	中筋	弦音	坐射	三息	金体白色	妻手	掛
執弓	弓構え	弓弣	霞的	射手	甲矢	鉄石相剋	弦枕	管

[式段]

- 1 審査を受ける心構えと意義を述べなさい。
- 2 弓具の取り扱いについて、①弓 ②矢 ③磔 の三つに分けてそれぞれ注意する点を述べなさい。
- 3 あなたの弓道修練をしている中で、今最も苦勞している点を述べなさい。
- 4 あなたは毎日どのように弓道の練習に取り組んでおられますか。毎日の練習方法と気を付けている点を述べなさい
- 5 三位一体について記し、説明しなさい。　　《教本巻一51～53P》
- 6 危険防止について述べなさい。
- 7 教本に示してある、基本の姿勢・基本の動作を列記しなさい。　　《教本巻一61P》
- 8 巻藁練習の効用について述べなさい。　　《教本巻一189P》
- 9 射法八節を列記し『足踏み～残身（心）』を簡単に説明しなさい。『 』の内容はその都度一節を替える。　　《教本巻一104～123P》
- 10 三重十文字について述べなさい。　　《教本巻一117P》
- 11 五重十文字について述べなさい。　　《教本巻一100P》

[参段]

- 1 射の上達を図るためにどのような鍛錬を行っていますか述べなさい。
- 2 巻藁練習の効用について述べなさい。 《教本巻一189P》
- 3 あなたの「生活と弓道」について述べなさい。
- 4 五胴について述べなさい。 《教本巻一108～109P》
- 5 射法・射技の基本を列記し簡単に説明しなさい。 《教本巻一99～103P》
- 6 大三と引分けの重要性について述べなさい。 《教本巻一112～115P》
- 7 三重十文字と五重十文字について説明しなさい。 《教本巻一117Pと射法八節図解》
- 8 入退場の心得を述べなさい。
- 9 教本に示してある、動作の注意点を列記し簡単に説明しなさい。 《教本巻一62～64P》
- 10 会における詰合い・伸合いについて述べなさい。 《教本巻一115～119P》

[四段]

- 1 平常心とは如何なることか述べなさい
- 2 手の内の矢に及ぼす影響について述べなさい。 《教本巻一110～111P：教本第二・三・四巻》
- 3 「離れ」と「残心(身)」について述べなさい。またあなたはどのような離れと残心(身)を理想として、日々練習していますか。 《教本巻一120～122P》
- 4 「呼吸(息合い)」について説明し、あなたはどのように実践しているか述べなさい。《教本巻一101～102P》
- 5 矢の処理方法と留意点(三原則)を述べなさい。 《教本巻一172～174P・弓礼・弓法問答集15～17P》
- 6 五重十文字について述べなさい。 《教本巻一100から01・射法八節図解・教本巻四》
- 7 体配の重要性について述べなさい。 《教本巻一59～64P・弓道教本巻四》
- 8 指導者としての心構えを述べなさい。
- 9 縦横十文字の規矩とは何をいうのか 《教本巻一101・118～122P：教本第四巻》
- 10 引く矢束、引かぬ矢束、ただ矢束とは何をいうのか 《教本巻一119：教本第四巻》